



源氏物語絵巻 宿木二(復元模写) 加藤純子製作 徳川美術館蔵

徳川美術館の至宝である国宝「源氏物語絵巻」は、12世紀前半に製作されたとみなされている現存最古の物語絵巻です。平成10年度からはじめられた科学的分析をはじめとする調査と並行して、製作当時の姿を再現する復元模写事業を、NHK名古屋放送局の協力を得て進めてきました。その様子は、NHKの特集番組「よみがえる源氏物語絵巻」で幾度にもわたり放送され、国内外を問わず大きな反響を喚んできました。今春、徳川美術館が所蔵する国宝「源氏物語絵巻」の絵15場面が全て完成しました。

目 次

● 愛知県博物館等職員研修会	2
● 第29回東海三県博物館協会交流研修会	3
● 「平成16年度部門別研修会」の報告	4
・美術部門研修会	
・自然科学部門研修会	
・歴史民俗部門研修会	

愛知県博物館等職員研修会

平成16年11月4日、5日に平成16年度愛知県博物館等職員研修会を開催し、参加者は1日目が38名、2日目が14名であった。

1日目は、ウェルサンピア岡崎にて、「資料保存と環境整備 2004年末臭化メチル全廃にむけて」をテーマに講演会を行なった。

貴重な資料を虫・カビ等から保護することは博物館の重要な課題であり、これまでの虫・菌害対策では、主に臭化メチル等を含む薬剤燻蒸が行なわれてきた。しかし、2004年末の臭化メチル全廃をうけて、地球環境や人体への影響を考慮して、薬剤に頼らず、日常管理の徹底により虫や菌が発生しない環境を作る「IPM（総合的有害生物管理）プログラム」などが注目されてきている。今回の研修では、この新しいシステムと虫菌害対策の実践例について取り上げた。

■ 「愛知県美術館における実践例」

愛知県美術館 長屋菜津子氏

■ 「アーカイブズにおける実践例」

国文学研究資料館助教授 青木 陸氏

■ 「IPMの理論的なまとめと個々の対処法」

東京文化財研究所主任研究官 木川 りか氏

■ 質疑応答

■ 情報交換会

長屋氏は開館当初の薬剤燻蒸から、IPMプログラムを導入した後の実践について、栄地下街との施設の接続による防鼠対策と寄贈作品の受入にともなうカビ対策を例として話を進められた。特にカビについては、その特性や生育環境の分析をはじめ、早期発見法や資料のクリーニング、作業室や用具の清浄化作業、職員の健康被害対策などについて詳細な報告がなされた。青木氏は文書館における資料の整理、保管、温湿度管理や清掃の方法などを実例をあげて詳しく紹介され、保存計画と保存担当者を決め、か

つ全体で情報を共有する重要性を述べられた。木川氏は、虫菌害防除法の歴史から、従来の薬剤を用いた一斉駆除とは異なり、日常管理による予防対策に重点をおいて複数の防除法の合理的統合で虫菌害を防ぐ、「IPM」の基本理念とその実践方法について解説された。IPMの進め方については、衛生管理、侵入ルートの遮断、害虫の発見、対処、処理後の管理に至るまでの個々の対処法とIPMの体制づくりについて詳しく述べられた。



講師による質疑応答

い説明があり、実践例として愛知県美術館や北米での取り組みを紹介された。その後質疑応答に入り、参加者より出された自館の収蔵庫の虫菌害対策の例を中心に議論が進んだ。講師の方々からは資料受入の際の燻蒸はある程度必要であるが、定期的な収蔵庫燻蒸については、実際に虫菌害がある場合は別として、燻蒸剤を散布し続けることによる収蔵資料への被害を考慮して、その必要性を各館で再検討する必要があるとのお話があった。

2日目は文化財見学会を行った。まず子どもを対象とした美術館の先駆であるおかざき世界子ども美術博物館にて親子造形センターと企画展の説明をうけた。午後からは岡崎市美術博物

館で企画展「驚きの浮世絵」を鑑賞後、平成15年4月にリニューアルした西尾市岩瀬文庫で展示と収蔵庫の見学を行った。

今回の研修会で得た最新の虫菌害対策の情報が、各館の今後の資料保存対策の参考となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の研修会にご協力頂いた皆様に改めて篤くお礼申し上げます。

(岡崎市美術博物館 浦野 加穂子)

■ 第29回東海三県博物館協会交流研修会 ■

期日 平成16年10月8日(金)～9日(土)

会場

・交流研修会 10月8日(金)午後1時から

　　三重県立美術館講堂

・「まつり・祭・津まつり展」見学

　　同日午後5時から 三重県立美術館

・情報交換会 同日午後6時から

　　三重県立美術館レストラン

・施設見学 10月9日(土)

　　三重県博物館協会加盟館自由見学

第29回の東海三県博物館協会交流研修会が10月8日から9日に開催され、愛知県博物館協会事務局として出席。

当日はあいにくの空模様で台風22号が近づいているにもかかわらず、総勢41館計60名の参加者があった。

1 10月8日(金)

(1) 特別発表

「まつり・祭・津まつり展の取り組み」について

津のまつりという題目で、取り組み方とその方法について三重県立美術館主幹の毛利伊知郎氏、及び津市教育委員会学芸員の園田純子氏が講演を行った。

・今年はニューヨークからの里帰りという「津八幡宮祭礼絵巻」が戻ってきたのを機に

三重県立美術館、津市教育委員会、民間企業と実行委員会を組み、大々的に祭りを行う。

・美術館ではこの「津八幡宮祭礼絵巻」ほか各祭礼絵巻を展示し、また唐人踊りの衣装やお面なども展示。

・津市教育委員会では市内の小中学校に動員をかけ、祭りを盛り上げる予定。

(2) 個別発表

「当館(うち)のいちおし～ここまできたに～」

上記のタイトルで、本交流研修会の参加者による自館の「いちおし」を発表した。41館ほどが発表。

(3) 次期当番県 愛知県博物館協会事務局

名古屋市科学館あいさつ

17年度は当科学館が幹事館なのであいさつを行い、次いで愛知万博へも足を運び、そして愛知県の博物館等へも来場されるようPRを行った。

2 10月9日(土)

「津まつり」は9日(土)、10日(日)と津の中心部で繰り広げられる予定であったが、9日は、あいにく、台風の影響で、早々と中止が決まった。

参加者は三重県博物館協会の加盟館を自由見学。

(名古屋市科学館学芸課 松河 功)

「平成16年度部門別研修会」の報告

<美術部門研修会報告>

3月12日（土）、「資料保存の考え方と実際」をテーマに豊橋市美術博物館ほかで開催し、20名の参加を得た。

■10:30～12:00 「日本古典の装訂」 藤井隆氏

（豊橋市美術博物館館長 名古屋市立大学名誉教授）

巻子、折本＜帙形・包表紙形・標準形＞との改良形＜旋風葉・固定形旋風葉＞や広義の折本と見られる折帖（画帖）仕立＜片面折・両面折＞、冊子＜粘葉装・綴葉装・双葉綴葉装＞と綴じ方の種類＜袋帳綴・大和綴・袋綴・包背装・明朝綴・康熙綴・麻の葉（亀甲）綴・朝鮮綴・長帳綴＞などの成り立ちや特徴についてお話を伺った。そのつど実物資料が回覧され、実際に手に取って見ることができたので構造を理解しやすかった。古典籍の取扱いに必要な知識であり、今後、改めて装訂にも注目してみたいと感じた。また、途中の『枕草子』や『源氏物語』はどのような装訂であったと考えられる

か？」というお話も興味深く伺った。

■13:30～15:00 「日本絵画の保存修理」 鬼原俊枝氏

（文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官）

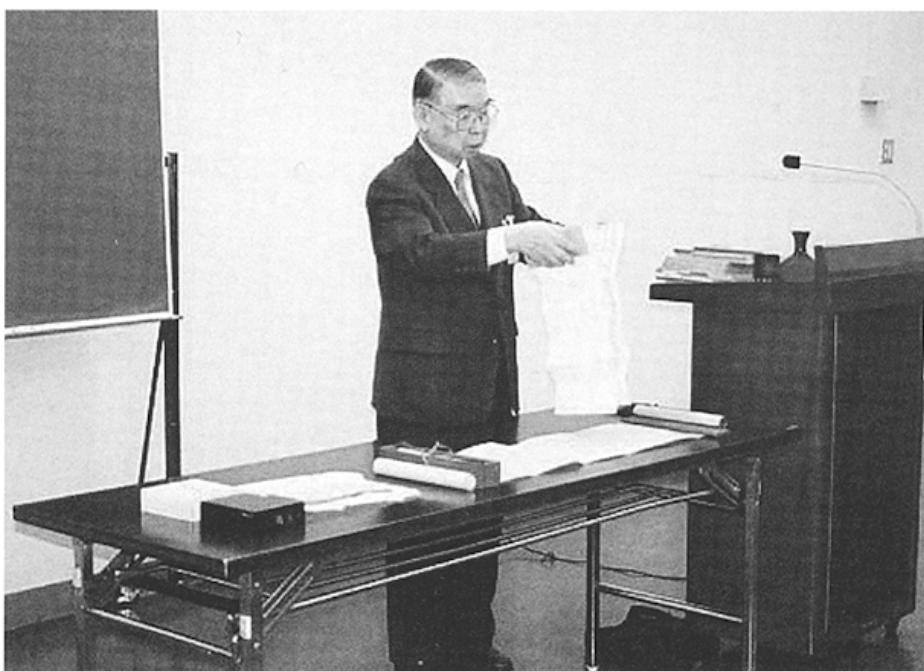
冒頭で、「文化財は“日本文化”を形づくる細胞である」といわれたことが印象に残る。例えば洛中洛外図というひとつの資料にも、美術史のみならず交通史、風俗史、建築史、国文学・・・数限りない分野にとっての資料的価値があるということを念頭において保存してほしい、と鬼原さんはいう。古画を例に、スライドで修復前と修復後を比較しながら、損傷の状態と原因、保存修理の考え方と実際についてお話を伺った。物理的保存と（絵画の生命ともいえる）表現の保存との狭間で、技術者の技術的判断以外に、維持すべき本質を見極める学芸員の美術的判断が重要であることを再認識する機会となった。

■15:30～16:30 修復工房の見学

修復中の当館所蔵日本画等を例に、シミ抜きやヒビ割れの処理について説明を聞く。他に、材料や道具の種類と用途の説明、裏打ちの実演見学など。

最後に、多忙を極める中で今回の講義を快くご承諾いただいた講師の方々に、改めて深謝申し上げます。

（豊橋市美術博物館
岡田亘世）



藤井隆氏による折本の説明

<自然科学部門研修会報告>

はじめに

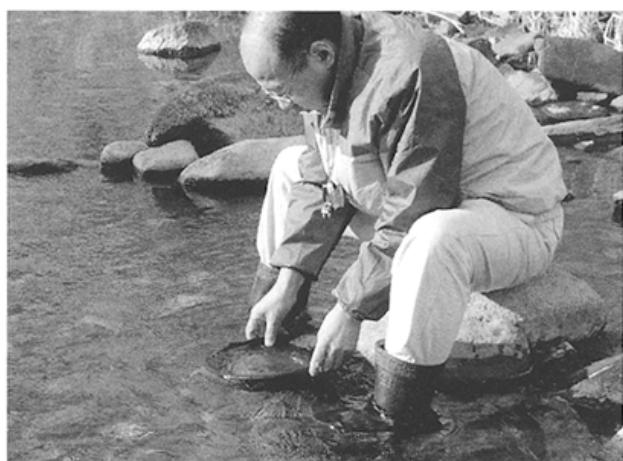
本年の自然科学部門研修会は、奥三河地方の地質と地下資源をテーマをして行われた。自然科学系以外の館からも参加者があり、専門ではない方々にも地質学の面白さがわかってもらえたようである。奥三河地方の地下資源は、残念なことにあまり知られていない。しかし、今回の研修会で訪問した場所は、地質学的にも大変有意義であり、さまざまな場面でもっと取り上げられてしかるべきである。その意味で、この研修会がこれから多方面で役立つことを期待している。

研修会のメニューは以下のとおりである。

- ・中宇利石と孔雀石の採集(新城市中宇利地域)
- ・津具鉱山跡(津具村)
- ・砂金採集(大入川)
- ・東栄町博物館見学
- ・大入川でのサンプルの顕微鏡下での観察
- ・化石採集(東栄町・石捨て場)
- ・三信鉱山・精錬所見学(東栄町)



中宇利石の採集



パンニング体験



パンニングで収集した標本を顕微鏡で検査

鉱物採集については、優良な標本は見つけることはできなかった。また、今回の研修会の目玉の一つである(?)砂金の採集では、パンニングという方法によって砂金の採集を試みた。参加者6名で1時間ほどかけたが、1人だけが、顕微鏡でやっとわかるサイズのものを2粒見つけただけであった。しかし、それらは単なる結果であり、採集を行うという過程を実際に体験することの重要性を再認識できたと思う。ことに、専門ではない方々にも、自然科学における採集・調査とはどんなものかというのがわかつてもらえたのではないだろうか。

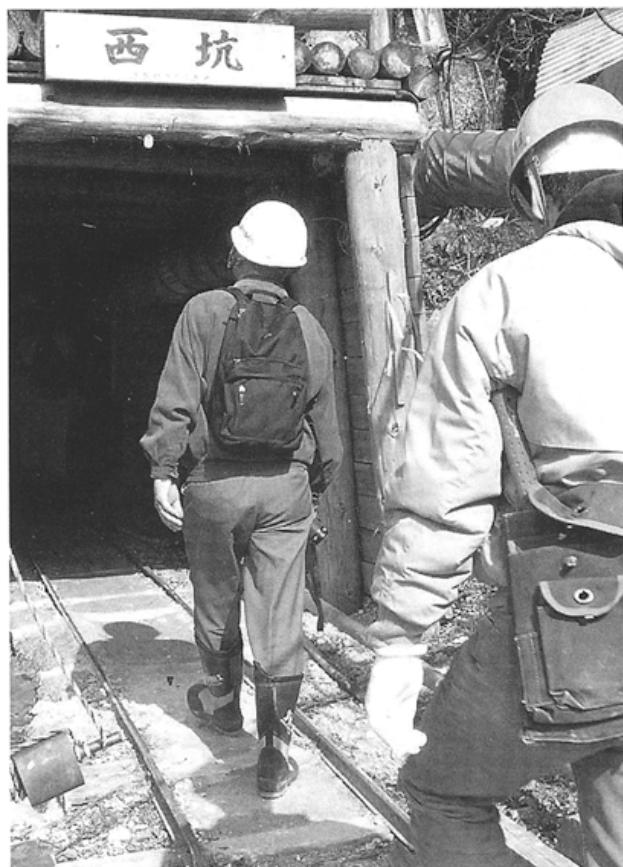
また、三信鉱山では、坑内と精錬所(の一部)を見学させていただいた。この鉱山の主な産出物は、絹雲母(セリサイト)と呼ばれる鉱物で、大きさ数ミクロンの粒子にして化粧品に利用さ

れる。実際に坑道に入り、新たな坑道の掘削、手堀りでの採集現場、手押しトロッコによる運搬などを見学した。坑内は泥だらけで一見荒っぽい現場ではあるが、トロッコ内部にゴムシートを貼ったり、坑道をささえるヒノキ製の杭の木くずが入らないようにしたりするなど、品質管理のための細かい工夫に驚いた。

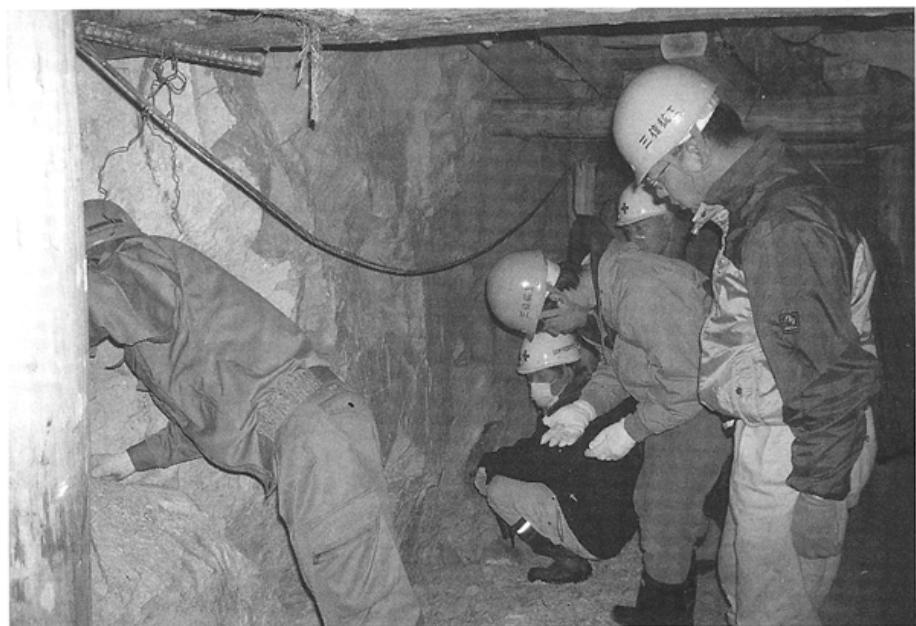
博物館の使命には、「実物・現場を用いた教育」というものがあると考えているが、今回の研修ではそれを特に再認識できたことと思う。今後もこのような機会をもっていきたいと考えている。

最後に、このような大変有意義な研修会を企画・運営してくださった鳳来寺山自然科学博物館館長の横山氏、学芸員の加藤氏に感謝いたします。

(名古屋市科学館 小塩哲朗)



坑道に入る



掘削現場の見学

<歴史民俗部門研修会報告>

2005年3月4日（金）、佐織町中央公民館において愛知県博物館協会歴史民俗部門研修会が開催された。

県内各地より博物館関係者、教育委員会関係者が23名集まった。

近年の災害勃発、市町村合併等により資料の散佚ということが決して対岸の火事ではない状況にあるのではなかろうか。こうした状況下「資料をいかに保存しているべきか」というテーマを設定し、資料管理のあり方について研修した。

冒頭佐織町教育委員会教育長青木萬生よりご挨拶申し上げ、その後研修に入った

人間文化研究機構国文学研究資料館（旧：国文学研究資料館史料館）アーカイブズ研究系所属の山崎圭氏より「史料を次代に残す」と題し、講演いただいた。

戦後の史料保存運動の歴史と、現代の課題である大規模災害から民間文書をどのように救済していくか、また市町村合併をきっかけとした公文書の廃棄問題についてふれ、戦後直後のように国が一極集中で史料保存することは現代社会

においては考えにくく、各種施設、機関のネットワークで保存していくことが望ましいという指針を示された。

とくにこの地域は東海地震という大災害が想定されているし、特に佐織町周辺地域では常に水害の危機に瀕している状況下にあり、実際にネットワークを活用した保存として紹介された新潟県の事例は参考に値しよう。

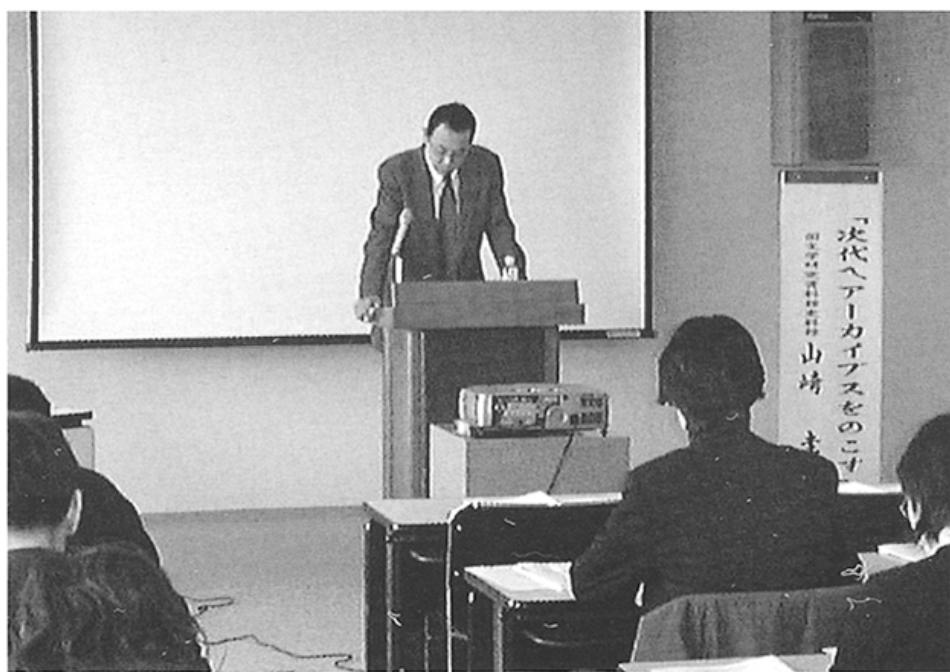
次に名古屋大学付属図書館研究開発室の秋山晶則氏より「史料のデジタル化—多様なコンテンツを活かす」と題し講演いただいた。

情報源の変化に伴い、図書館が対象とする資料が多様になってきているという現状を述べ、保存の重要性もさながら、その活用ということも資料管理上看過できない重要な課題であるとする。例えば古文書をとりあげてみても、史料そのものの保存も重要であるが、デジタル化することで利用が可能となり、また新たな活用が生まれる。ここではデジタル化の事例としてエコレクションデータベース計画を紹介され、その概要を知ることができた。

伊藤圭介文庫は数年前に第一段階の公開(画像のみデジタル化、公開)をした結果、それまでオ

リジナルだと思われていた絵は、類似史料の存在が明らかになり転写であることが分かった。世界最大規模の植物園との交流も生まれた。伊藤圭介は博学だったので各種専門家とのコラボレーションによる内容分析が必要となった。

高木家文書については、そもそも高木家は西、北、東の三家あり文書がそれぞれ別々に所有されているが、このような史料に



山崎圭氏「史料を次代に残す」

ついてもデジタル化すれば一箇所に集めることができ
可能となる。

今後については課題もあるが、歴史情報の共有化と活用、学問の領域を越えたコラボレーションが期待できる。

資料管理に従事するわれわれにとって、資料を次代へ継承していくために保存する上での考え方、単に保存に終始するだけでなく活用にも目を配る

ことの重要性等について、事例をみながらの研修で大いなる成果を得たものと確信する。

最後になりましたが、今回公私多様の中講師をお勤めいただいた山崎、秋山両氏にあらためて謝意を表したい。加えて当日会場において不備な点多々あったかとは存じますが、深謝申し上げ擱筆したい。

(佐織町歴史民俗資料室 石田泰弘)



秋山晶則氏「史料のデジタル化－多様なコンテンツを活かす－」

「愛知の博物館」 No.81

発行日 平成17年3月31日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒460-0008

名古屋市中区栄二丁目17番1号

名古屋市科学館内

TEL (052) 201-4486

FAX (052) 203-0788

<http://www.ncsm.city.nagoya.jp/>